《第116回》　令和五年二月の作品

〈二月十日（金）　於・文京区民センター３Ｅ〉

赤彦の歌つぶやきて春を待つ　（芙紗）

ぐうたつちいざ出陣の受験生　（貴美）

青空に梢ひろげて冬けやき　（隆治）

凍てる朝ラジオの歌は「春よ、来い」　（孝昭）

句会があると言ふことだけであたたかし　（清助）

昭和歌謡コンサート

梅咲くや昭和の歌に老ひ忘れ　（正佳）

手をつなぐ園児らの列春を待つ　（平六）

廃墟跡に生命（いのち）を示す初蒲公英　（奉男）

駿河湾に沈む夕陽や鳥雲に　（一江）

雪の宵妻は夕餉の支度かな　（前歩）

春うららチャイコフスキー生で聴く　（正雄）